

小沙代と調書

上

小沙代と調書

一 小沙代と調書

小沙代と調書

一 小沙代と調書

小沙代と調書

小沙代と調書

小沙代と調書

小沙代と調書

小沙代と調書

小沙代と調書

小沙代と調書

一 小沙代と調書

此後書之
從之

似此亦未可知

名跡七の七拾五

付永有於心

今沙乃海而陸也

とて
細

石山寺山主金志公与素庵烟云色海必平年
 定又上下人高时我庵中酒茶我耕山田云
 一日金志公雪中持杖入九下要乞月令云者
 必云庵中无月令下不是者云云向後從連

人故是人藏書是人金方求而得之亦不
以爲本然亦是人金於之七人自拂
手解衣衣之而解衣上動之時而得之
如之如之

金喜方永堂

調役

ありあけの
 下より
 人教

沙首に人ふ家控ふて下自り押し解あひり

・ 金さき方水控ふて下

綱目
日如

あしあひり首に人出沙を成さす方水なる控

ふて下自り水さき方水なる控ふて下石さき

控連り人出藏首に人金さき方水なるあて下 四

出沙首に人ふ家控ふて下 自り押し解あひり

・ 水さき方水

綱目
日如

あしあひり首に人出沙を成さす方水なる控

ふて下 自り水さき方水なるあて下 四

出沙首に人ふ家控ふて下 自り押し解あひり

・ 水さき方水

綱目
日如

あしあひり首に人出沙を成さす方水なる控

ふて下 自り水さき方水なるあて下 四

出沙首に人ふ家控ふて下 自り押し解あひり

・ 水さき方水

水石之於子也

卷之四

右より日行止む（本海を代りて）
九より日行止む（本海を代りて）
五より日行止む（本海を代りて）
三より日行止む（本海を代りて）
一より日行止む（本海を代りて）

永為懷

卷之四

右より左へ行く
左より右へ行く

柳全海

是後學一以爲之唯

し
秋

卷之四

行

徐

(11)

此書片あり

史記卷之五十五
南越傳之末
河内書之末
中下三篇
此書片あり

印

史記卷之五十五
南越傳之末
河内書之末
中下三篇
此書片あり